

# 大きな成果を支える地道な 産業保健活動

古河電気工業株式会社 千葉事業所 総務課  
安全衛生グループ 保健師 鶴岡 寛子さん



古河電気工業株式会社千葉事業所は安全衛生に対して非常に関心が高い。これは、産業医をはじめとした産業保健スタッフ等が積極的な活動のもと積み上げてきた成果だという。そんな事業場で産業保健の一助を担ってきた鶴岡寛子さんの活動をご紹介します。

## 会社を巻き込んだ組織的な産業保健活動

鶴岡さんは元来、病気になる前に予防するという予防看護に関心が高かった。そこで、人の一生において一番長い時間を過ごす会社生活で、仕事と健康の調和を図り、元気に働くためのサポートができる、産業看護の道を選んだ。今年でこの千葉事業所は9年目となる。

「わたしたちは、さまざまな課題に対し長期・中期・短期で目標と計画を立て、活動しています。その結果を評価し、改善の対策を立てています」。例えば、全社的に取り組んでいるメンタルヘルス対策では、2002年より『メンタルヘルス3ヵ年計画』を策定。①体制の整備や知識の普及、②2次・3次予防、③個人に対する1次予防と、3年ごとにステップアップし、2011年からは新たに④職場に対する1次予防(ワークエンゲージメントに注目した快適職場検討会の実施)に取り組んでいる。

これらの産業保健活動は、毎年事業所で策定する「安全衛生活動計画」の中で重点実施項目とされている。そして、安全活動と同様に、産業保健活動もPDCAサイクルを回しながら活動をしている。

「計画は、会社や職場の状況に合わせて、長期目標を達成するために必要な活動を、従業員からの意見も取り入れながら、段階的に行っています。また、目標は数値で示し、各職場が積極的に改善に取り組み、その改善を簡単に評価できるように、できるだけ工夫をしています」。地道な活動が評価され、2006年に事業所独自の「衛生表彰」がスタート。職場や会社全体の衛生意識の底上げにつながった。

このように、産業保健活動を安全活動の組織体制に組み込んで

実施することで、会社を巻き込んだ活動につながっている。

## 個別対応で行動変容のきっかけを、目指すは健康のプロ!

集団や組織への働きかけも重要であるが、個人へのきめ細やかなフォローも欠かせない。「皆さん、自分の中に答えを持っています」と鶴岡さんはこういう。「非効率だといわれるかもしれませんが、わたしたち看護職は、十人十色な個人に合わせたアプローチで、一人ひとりが『きっかけ』を見つけるためのお手伝いしています」。そのためにあの手この手と工夫しながらアプローチをしている。興味関心のある情報を提供することで、本人の持っている情報や思いが整理され『気づき』や『きっかけ』となる。しかし『きっかけ』により努力を始めても、成果が出てくるまでの時間も人それぞれ。そこはやはり“継続は力なり”のようだ。鶴岡さんは「できるところから少しずつ」とアドバイスし、努力していることを評価、そして次の目標を一緒に考えていく。「これからも応援しています」という鶴岡さんの小さな一押しで、知らぬ間によいスパイラルへと導かれ、一人ひとりの行動変容につながっている。また、その一人の行動変容が周りに影響を与えることもあるという。「一人の従業員が禁煙や減量を始めると、その人の周りにも変化が生まれ、別の従業員が『オレも始めてみようかな』とボソッとつぶやいたりしてくれます」と教えてくれた。

「従業員一人ひとりが自分の健康のプロとなるように、職場や事業所が主体となって積極的に産業保健活動に取り組むように、微力ながらサポートしたいです」。一人への支援がみんなの支援へ、みんなへの支援が一人の支援へ。組織・集団・個人に働きかける地道な努力が少しずつ成果につながってきている。

### 会社概要

古河電気工業株式会社千葉事業所  
設立：昭和36年  
従業員数：約900人  
所在地：千葉県市原市